

P 7 QOLと免疫・内分泌機能との関連 —還暦住民における調査—

○上馬場 和夫 (富山県国際伝統医学センター)
許 風浩 (富山県国際伝統医学センター)
山口 宣夫 (金沢医科大学血清学教室)
泉 久子 (金沢医科大学血清学教室)
Delixiati Yimiti (金沢医科大学血清学教室)

【目的】補完代替医療では、検査値には変化を与えなくても、総合的な効果を認める治療法も多い。そのように人間を全体的にとらえて治療法を評価するため、QOL(Quality of life)の評価法が最近注目されている。しかし、QOLは極めて主観的な指標であり、血圧や血清脂質などとの関連もないことから、測定の意義や信頼性について疑問視するむきも多い。そこで我々は、WHOが開発したQOL指標(WHOQOL26)が、免疫・内分泌機能など客観的指標と関連するかどうかを、同一年齢(還暦)で生活習慣をマッチさせた同一地域住民において検討した。

【方法】富山県国際伝統医学センター倫理委員会の承認を得た後、住民基本台帳をもとに富山県内3町の還暦住民1553名にアンケート調査を行い、WHOQOL26に解答をしていただいた。有効解答を得た928名から、WHOQOL値の高、中、低値群、各54名に、朝食抜きでAM9:00-12:00までの間に来所してもらい、WHOQOL26の再検、免疫機能検査:T細胞、B細胞、NK細胞、Mφ:CD2,CD4,CD8,CD11,CD16,CD19,CD56、T cells with IL1b, IL4 and IF γ :フロサイトメリー法)、生活習慣病危険因子、内分泌機能(DHEAs)を検査した(平成13年8月9日~同年10月1日)。それらの値とWHOQOLスコアとの関連を調査した。

【結果】、WHOQOLの再現性は $r=0.73$ ($p=0.00001$)と有意であった。WHOQOLの免疫・内分泌機能への影響をみるため、現在医療をうけておらず危険因子のない群65名を選別した。その群でのQOLスコアと免疫機能との相関性を、Spearmanの回帰分析で検討した。その結果、WHOQOL26は、CD8+Tcell、CD4/CD8比との有意な相関を示すことが明かとなった($r=-0.42, 0.41, p<0.0001, N=65$)。

【結論】生活習慣、危険因子、疾病の有無などを補正した群において、WHOQOLスコアが主にサブレッサーT細胞、NK細胞などの機能と関連することが示唆された。精神神経免疫学で言われている事柄が認められ、WHOQOLを利用する価値が支持された。